

- ① シャルル・ペロー 著、ギユスターヴ・ドレ 挿画、
今野一雄 訳

『ペローの昔ばなし』

(白水社)

ペローは、モリエール、ラシーヌ、ラ・フォンテーヌなど優れた作家が出た17世紀フランス古典主義文学最盛期の作家の一人です。彼は、ルイ14世の大臣コルベールの下で仕事をした官僚でもあり、またアカデミー・フランセーズの会員でもありました。

彼には、多くの作品がありますが、彼の名前を今日まで残しているのは、本書にほかにありません。

本書は彼の創作ではなく、民話をやさしく書き改めたものですが、簡潔明解で文体が優雅であったので、当時大好評を博していました。

また、各作品の後には、教訓が記されており、本書がただ面白い子どもの読み物というわけではなく、冒頭の献辞が「姫君」で始まっているように、ある王侯の姫君に献げられたモラルの教育書でもあります。

953-Per (H.T.)

- ③ 安河内哲也 著

『できる人の教え方』

(中経出版)

教えるということは、できない人をできる人に変え、分からない人を分かる人に変えることです。その点で、この行為は私たちの日常生活の一部になっていると筆者は言います。相手に分かってもらえて、やる気を引き出し、また相手のタイプや場に合わせた「教え方」を知っておけば、相手の為だけでなく自分の為にもなるのです。本書は、人前に立つ仕事をしている人に限らず、コミュニケーション力を向上させたい人におすすめの一冊です。

361.45-Yas (R. K.)



- ② 綾部武彦〔ほか〕 著

『身近なコトから中国語』

(国際語学社)

中国語を学習するにあたって、まずは簡単な会話をいろいろと覚えたいと思っている方は多いと思います。

本書では、日常生活で起こる様々な場面が106の事柄に分けられ、それぞれの事柄に10の中国語会話の紹介がされています。脚注やコラムも各場面があり、中国に関する知識も得ることができます。基本的な中国語会話を学ぶことができ、一読をお勧めします。

827.8-Miji (N.I.)

- ④ T.A.リチャーズ、ルース・M・ロメロ、
クリスティン・ギブソン 著

『絵で見るスペイン語』

(IBCパブリッシング)

外国語を学習する中で、必ずと言っていいほど躓くのが動詞の活用。時制に加え、主語によっても活用が変わるヨーロッパ系の言語は特に複雑です。

本書は主に、連続したイラストとイラストを説明するスペイン語で構成されています。イラストがあることで、単語を覚えやすく、日本語に置き換えずに表現をそのまま理解することが出来ます。また、一見脈絡なく配置されているように思えるイラストも、時間の流れに沿っていたり、主語が入れ替わっていたりして、時制や主語の変化による活用を無理なく覚えることができます。

これからスペイン語を始める方も、学習している途中の方も、是非一度手にとって見て下さい。

860.7-Edem (Y.Y)